

「学生の皆さんへ」

平成2年卒 番 睦

交通工学研究室出身、学部卒で京王電鉄株式会社に入りました番と申します。

かれこれ勤続26年、2年ほど前より鉄道事業本部工務部長という職についています。入社してからの履歴を振り返ってみますと、土木技術者として配属後、保線（線路の保守・改良計画）と連続立体化等の工事計画を数年ずつ担当しましたが、すぐに技術屋をクビになり、その後11年間は鉄道の予決算や国土交通省対応などを行う部署や人事部の労務担当などを渡り歩きました。

技術屋として入社するとほぼ最後まで技術職を全うする者がほとんどであったなか、複雑な思いはありましたが、今思えば、それらの経験が鉄道技術者としての幅を大きく広げてくれたと感じています。

目の前の専門業務にのみ集中するのではなく、ご利用いただくお客様や従業員（運転士や駅員も業務上で線路や駅舎を使うユーザー）の視点に立ってものづくりをしなければ、最も身近な公共交通機関である鉄道の施設が無責任なものになってしまいます。お客様や従業員、また行政の方々のほか、お身体の不自由なお客様の団体や地方議員のみなさまなどともいろいろな場面で数多く意見交換をさせていただいたなかで、「みなさまの期待に応える責任の重さ」や「鉄道事業者としての思いを理解していただくことの大切さ」をたくさん学ばせていただきました。

約8年前に工務部に戻り、現在は部長として部下を育てていくなかで、どのような場面でも視野を広く持ち、様々な関係者の立場に立つことのできる技術屋をひとりでも多くつくり上げていこうと考えています。

弊社では、今、笹塚～仙川間連続立体交差事業という大きな事業がスタートしています。

東京都が事業主体のこの事業は、延長7.2kmという、一度に行うには都内でも過去に類を見ない規模の連続立体交差化です。この事業は、間違いなく京王電鉄という鉄道会社の未来像をつくり上げていく極めて重要な仕事となります。

関東の民鉄においては大規模事業が収束していく傾向のなかで、弊社は、このほかにも、ターミナル駅の大規模改良やリニア中央新幹線新駅への対応など、どれをとっても身震いするほどの大きな案件が目白押しに始まります。

これらの仕事の全てを私ども工務部が、すなわち土木・建築技術者が主管部署として社内の各部署を仕切り、行政との複雑な協議を行い、実行していくこととなります。

これらを成功させるために、各業務を責任もって全うできる技術者を育てていくことが私の使命であり、また、将来これらの仕事を支える多くの技術者が弊社に集まってくださることを願っています。

重ねて申し上げます。弊社における鉄道技術の業務は、間違いなく一生を捧げるに足る仕事です。ひとりでも多くの方に仲間として加わっていただき、また関係者としてかかわっていただき、鉄道技術のど真ん中で、大いに活躍していただきたいと考えています。